# 敬老の日はボヤキの日

ふじた　あきじ

人生６０年とか７０年とか言って、老人が元気になり、寿命が延びたと喜んでゴルフ三昧に明け暮れて、おかげで敬老精神なんて何処かへ吹っ飛んでしまった。

そういう私もいい年をして、まだ電車で通勤しているが、列車内のストレスが溜まること、帰りには一杯やってｶﾗｵｹで発散することも多い。そのストレスとは全く大人げないこではある。

事例を挙げるときりがないが、若い男女はシルバーシートや優先座席には全く無頓着、携帯電話も鳴り放題。あたかも神主さんのように携帯電話を杓に見立てて拝んでいる。「掛けまくも畏しこみ恐しこみ申す。」その横では女の子が鏡を覗き込んで化粧に余念がない。鏡が小さすぎて顔全体が見えないためにバランスがバラバラ。しかし、だーれも沈黙して知らん顔。通勤電車は人を黙らすにはもってこいの教室である。

ある日の朝ラッシュ時にいつもの駅で、改札機に定期券を入れようと、機械の手前３０ｃｍか４０ｃｍのところまで定期券をかざした、まさにその間一髪、若い男が先にカードを入れて、私の前を悠々と通っていっちゃった。この若者どこでどんな仕事をしているのだろう、世知辛い世の中になって、セッカチな性格になったのだろうか、と思わず呆れるやら、その無神経さに腹が立つやら。セッカチな私もこれには参った参った。

プロ野球で優勝したと言っては、汚いどぶ川に飛び込んで受けをねらうボケ。おかげで公費を掛けて防止柵を設置した
り、河川、道路、交通及び消防関係にお勤めのおじさん達は時間外勤務で、これまた多額の人件費を使うことになる。群集や報道関係者がチヤホヤするから余計に調子に乗る。いいかげんにこんな馬鹿はほっといて無駄使いを止めましょう。

これも私のような世代の男が、会社人間とか企業戦士とか言われて、利益追求型社会に身を委ねて、肝心かなめの道徳教育や敬老の心を忘れて、女性は茶髪にして、一事が万事ブランドを追っかけている間に変わってしまつたのか。情のない自己責任のない、ないない時代がますます広がっていくのだろうか。漫才で有名な人生行路のおやじが、さぞや嘆いていることだろう。　「責任者出てこい。」

親切で思いやりのある世の中に早く戻って欲しいと期待しているし、私たち大人がそう指導していかなければならない。

それにつけても敬老という言葉は死語となりつつあるような気がする。少子高齢化社会となって「敬高齢者の日」とか言ったりしたら、ますますややこしくなってくる。

敬老の日とは老人をしごいて鍛える日ではなくて、敬う日であることを自らも再認識して、人の道を説く心を大切にし、敬老精神を呼び戻してほしいと願うばかりである。